挨　　拶

新学術会議会員当選にあたりて

学術会議会員として第5部（工学部門）に土木関係8氏が当選されたことは既報のとおりであるが，今回諸氏の抱負をうかがうべく原稿を依頼したところ，早速執筆されたので，ここに発表する。諸氏に対し謹しんで謝意を表する次第である。（年齢順）　　（編集部）

正員　工博　吉田徳次郎[1)]

日本学術会議会員に当選しましたので，感想を書くように，奥田さんから御依頼がありました。別に感想も御座いませんとお断りしたのでありますが，お前だけが書かないのは困るとのことで御座いましたので，感想のかわりに，皆様に御挨拶を申上げさせていただきます。

東大一工の土木教室から，候補者になるようにとのことで御座いましたとき，当選したらば，お役に立つよう働きましようと申上げたのでありました。しかし私の当選は，おぼつかないと思つて居りましたし，また，お前が落選することは，お前よりも適当な人が沢山あるということなのだから，むしろ，喜ぶべきことだという声も，どこかで，しました。しかるに，なぜ当選したのかと考えてみましたところ，全く皆様の私への御友情の賜であるということがわかりました。それで，今更ながら，皆様の御友情にたいして，ただただ，感謝致しているので御座います。

学術会議会員として，ああしたら，こうしたら，ということも御座いますが，私の力で，できるとも思われません。せめて，理想への第一歩でも，ふみ出すことができればと，思うばかりで御座います。老骨に鞭うつて，皆様の御友情の万一に答えたいと念願して居りますから，何卒，今後，一層の御友情を願上げまして御挨拶と致します。　　（Dec. 20.1950）

正員　田淵壽郎[2)]

日本の復興は科学の振興の外ないと思います。凡てを科学的に運営して最も能率を挙げる事が何よりも必要と存じます。如何にも抽象的な言葉でありますが誰もが云う事であつて然も実行は至つて困難であります。此の困難に打勝つ為に努力するのが学術会議会員の任務だと思います。二，三例示しますと，

1.　適正技術の決定と之が一般化

日本では兎角名前にとらわれて実質を間違えて居り之が為能率を悪くして居るのみならず時に失敗して居ります。例えば水力電気と申しますと世間では電気だから電気技術者が設計工事するのだと思つて電気専門家にやらせるのだと思つて居りますが之は或る程度間違で電気には違いないが其大部分は土木技術であります。完成後は電気技術が主となるのは申す迄もありませんが計画と工事とは土木を主とする事が能率増進の工費の節約になるのであります。又戦争中に工業教育を拡張しましたがその節土木は消費技術だから不要だと云つて居り又機械とか電気とか丈を増せばよいと云つて居り，又工場さえ作れば戦争必要品は出来ると云つて住宅とか交通とかは度外視して大失敗した事は周知の事であります。医学で云つて見ると臨床だろうが病理だろうがおかまいなしにあれは博士だから分かろうと云つて診て貰つて失敗する。こんな例は沢山あつて要するに日本人が適正技術（言葉は一寸問題ですが）を知らないからだとも云えるし科学常識がないからだとも云えます。

依而適正技術を充分に組織的に決定して知らせる事は急務と存じます。

2.　研究所の拡張と整理

1）前土木学会々長，日本学士院会員
2）名古屋市助役
3）土木学会副会長，建設技監
4）現学術会議会員
5）北海道大学工学部長
6）土木学会中国四国支部長
7）運輸省港湾局長
8）京都大学教授

此の前段は誰も納得ずる処ですが日本には相当研究所もあります。只勝手にやつている為に充分な成果を挙げる事が出来ないと思います。依而学術会議は徹底的に日本の試験所研究所を調査して必ず之丈は必要なりとの結論を出してそれを最も合理的に活用して不充分ならば拡張するとか新設するとかすべきだと思います。

3. 国土開発綜合計画は学術会議でなすべし

日本国土開発については其の関係権威者を全部持つて居るのが学術会議だと思いますので此の会議で検討するのが最も権威あり独創的な案が出来ると思いますので此の会議で取上げる事が必要と思います。

色々外に考えもありますが以上の事は是非やつて見たいと思います。

副会長　**稲浦鹿藏**[3)]

この度本学会の御推薦によりまして不肖私が浅学菲才をも顧みず日本学術会議会員選挙に立候補いたしました所，各位の絶大なる御後援によりまして幸に当選の栄を担う事が出来ました。各位の御厚情に対し深く感謝の意を表します。

私は今夏土地計画と資源利用問題特に洪水調節の問題に重点を置いて視察研究する事を課題として渡米を命ぜられました。この問題に関係せる科学者や技術者について現在米国で行われて居る計画と実施に関して委しい説明と意見を聞き更に現地を視察して参りましたが，人口に於いては僅かに我が国の2倍に過ぎないが面積に於いては約20倍の広大なる国土を有し，之れに包蔵する天然資源が極めて豊富であつて，文化経済の程度に格段の差があり，国民の生活水準は更に高度に位し，自給自足余裕綽々たる豊饒の国に拘らず，政府は人口問題は勿論地方計画，資源開発，土地保全等の問題を大きく取り上げて，国家将来の発展の為に，国民福祉の増進の為に関係各機関が老大なる組織と莫大なる経費とを投じて科学的に技術的に将又経済的に調査研究を行い，其の結論を基礎として計画立案更に実行に移して行く有様を目のあたり眺めた時，無益な戦争の為に十数年間の深い眠りから激しく揺り起された感じをしみじみと身に泌みたのであります。大自然の偉力を征服して国家の発展を図り国民生活の幸福を増進する為には科学こそ只一の武器であります。私は幸に建設省に席をおき日夜現実と取り組んでつくづく科学の振興と技術の発達の必要性を痛感したのであります。この狭隘なる国土に八千万人の人口を抱擁して，新しい国是の下，民主主義を標榜して平和文化国家の再建に第一歩を踏み出した時，打ち続く苛烈な災害に国土は荒廃し，産業は衰微し，国民思想は弛緩し将に破滅の淵に臨むが如き状態を憂慮せざるを得ないのであります。此の危機を脱却して国家の最高目的を達成する為には，国民の生活水準の向上，思想の堅実化をはかり全国民が極めて快適なる気分を持つて総力を結集して新国家の再建に努力しなければなりません。即ち斬新なる科学に立脚して災害防除，資源開発，産業振興，貿易発展以て経済力の増強に対する組織的な計画を樹立立案し強力に且つ堅実に実行に移すことこそ目下の急務であります。真に日本学術会議の活動こそ，この危機に瀕せる国家再建の原動力たることを信じて止まないものであります。私誠に微力ながら，この崇高なる本会議の目的完遂の為に最大の努力を捧げる覚悟でございます。各位の一層の御支援と御鞭撻を御願申上げます。

正員　**中原壽一郎**[4)]

御承知の通り，日本学術会議は，科学が文化国家の基礎であるとの確信に立つて，わが国の平和的建設を使命とし，わが国の全科学技術者を代表する機関として設立せられ，科学を行政，産業及び国民生活に反映せしめ浸透せしめることを目的としている。

決議の結果は，政府に対する勧告の形となり，又諮問に対する答申の形式となつて現われる。

文化国家建設と云う重大な目標達成上の必要から戦後特に生れた科学技術尊重の具体的方策であることは申すまでもない。

一般の国民は，国会へ議員を送ることにより，国政に参劃しているのみであるが，われらは文化国家の基礎である科学者なるが故に，一般国民の有せざる一つの権利が与へられた。それは学術会議を通じて行われる，国政参与権とでも云うべきものである。

これは明かに一つの特権であるが，これに伴つて重い責任のあるのは当然である。

世間には「学術会議は何をしたか」などとそれ自体を目標として批評をする人があるが，それは全面的に中つて居るとは思われない。重心は寧ろ，学会，協会は勿論，これらの構成会員にあるべきだと思う。わが国の全学会，全協会，研究機関及び技術団体等が活潑に活動し，夫々の意見を，法定代表機関たる学術会議にぶつつけて来るようになつて欲しい。然らば遂次，行政も産業も，われらの思う線にそうようになろうと考える。

自分にとつて土木学会は母体であり，自分は学術会

議に於けるその代言者である。学会の意図するところは勿論，会員各位個々の御意見であつても，どしどしと，御連絡，御鞭撻の程，希望致します。

正員　工博　**大坪喜久太郎**[5]

北海道在住の有権者各位の御推薦によつて再び日本学術会議会員に当選しましたことは洵に感激であり，又再度の御奉公は責任の大きいことを痛感します。学術会議はその第二条に『日本学術会議はわが国の科学者の内外に対する代表機関として科学の向上発達を図り行政産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的とする』と書いてありますが発足してから僅か2ケ年であるけれ共，会議のあり方などもようやく固つて来た感がありますし，又運営審議会の外，会議の目的達成の常置14，臨時12位の委員会が設置されて夫等に就いて短期間ではありましたが可成の成果を挙げられて居ます。今後更に其の他の適切な，新しい議題に就いて真剣に討議されることでせう。たゞ遺憾なことは学術会議は政府に勧告したり，政府の諮問に答えたりする機関であつて行政機関ではありませんから科学国策へ強く反映さすことが出来ないことであります。考え様によつては学術会議は相当有力な会員で構成されて居るから今少しく政策に反映さすことが出来るのではないかと思われます。それには学術会議と平行して科学技術行政協議会と言うものがありますが充分成果が挙つて居るとは言えない様に見受けられます。何かそこに欠陥があるのではないでしようか。私は会議員が全力を挙げて一意専心会務に時間を費すことが出来るような仕組にすれば，よし諮問機関であつても肯綮に当る主張と熱意は各政党の政務調査会あたりでも，耳を傾けようし，默つて居ても，学術会議に相談に来るし，会議の権威も向上するのではないかと思います。北海道には科学技術連盟と言うものを結成して北海道総合開発推進の一役を買つて居る積りでありますが根本に遡ると，どうしても文化の向上と言うことに帰着しそうです。そうしますと会議の第二条に言つて居ることを忠実に実行して戴けば好都合ですが最初の2ケ年間は遺憾ながら国民生活に科学を反映浸透させることは余り花々しくなかつた様に思われます。それには地方から選出された会員も責任がありましようが総会も時には経費の許す範囲で（事務局は東京においてもいゝが）相当大袈裟に地方で代り代りやることも又地方文化の向上に資することが大であろうし，学術会議夫自体を大衆により多く認識させ，引いては国民の支持が得られるのではないかと考えられます。前会員として一，二気付いたことを記しましたが，今後更に3ケ年間，会議の目的達成のため，何くれと土木学会々員各位の御教示と御支援を切に御願いします。

正員　**伊藤令二**[6]

第2回日本学術会議会員選挙に当り，土木学会其の他よりの御推薦により，第5部（工学）中国四国地方区より立候補致しました所，皆様方の絶大なる御援助により当選することが出来ましたことは，私の最も光栄とする所であり，感激に堪えない次第であります。

由来，一国文化の進展と国力の発展は，国民生活のあらゆる部面に於て合理性に其の基礎をおいて始めて達成し得られるものと考えます。而して生活の合理性は科学及び技術が其の根幹となるのであります。従つて一国の国力，即ち文化，経済の進展は実に科学，技術が其の根底となるのであります。

然るに我国に於ける科学技術に対する一般国民の関心が少ないことは甚だ遺憾に堪えない所であります。

私は学術会議会員に当選して，先づ第一に考えることは，国民全体の科学及び技術に対する関心を高め，其の振興を図ることに微力を致したいと思うのであります。現在我国に於ては特に政治，行政の部面に於て科学，技術に対する関心うすく，従つて我国政治及び行政に於て合理性に欠くる所多きを遺憾と存ずるのでありまして，国家公務員の職にある私は特に此の点を痛感するのであります。今後私は科学，技術を政治，行政の面へ滲透せしむることに全力を尽したいと考えて居ります。何卒，今後とも相変らずの御援助を賜わり度御願い申上げます。

正員　**黒田静夫**[7]

戦後科学技術の振興を目指して日本学術会議の誕生を見たのでありますが，わたくしはその活動の目標である（1)科学技術の進歩発達，（2)行政面，産業面への科学の反映，（3)国民生活への科学技術の滲透，へ大なる期待を持ち，同会議の積極的発展を衷心から願つてきた一人であります。

この度日本学術会議の第2回選挙にあたり，不肖浅学菲才でありますが土木学会会員及びこれを中核とした日本建設技術協会，港湾協会並びに港湾を利用する各種産業界の科学技術者各位の御推挙を受けて光栄ある会員の末席をけがすこととなりました。この御支援御鞭撻に感激して科学技術と港湾の強い結びつけの上

に立つて港湾の振興を図りたい念願であります。

港湾は運輸交通における水陸の結節点であるとともに国土の開発，産業の発展に欠くことの出来ない基盤であつて，複雑多岐な内容を包蔵しております。この故に港湾に関する学問もまた多くの専門分野に亙り，色々な科学技術を綜合した工学であります。然るに港湾の工学は理論の方面でも，応用の方面でも相当立遅れであり，また工学の研究対象として盲点である感が深いのであります。

わたくしは大正15年以来主として港湾の建設に従事し，引続いて今日迄海運の行政等にたづさわつている間の経験で港湾は海運と陸運の両分野に関係しながら両者の比較的進歩した部面に挾まれ置き忘られた形で非能率的な利用運営を行つている。港湾工学の遅れと深い関係があるのでお互に因となり果となつている。この現状を打開し港湾の科学的発展を実現するため真剣な努力を傾注して行きたい覚悟であります。

港湾は土木の一部門であり，土木のなかでも綜合的であることを申し上げましたが土木そのものもまた工学部門のうちでは最も巾の広い綜合的な工学であります。このことは他の工学が土木を基盤として分派し発展した歴史的沿革を見ても了解出来るのでありまして工学部門の間に介在して横の連絡をとりながらその振興を図るのに適した地位にあります。幸い土木部門からは全国区，地方区を通じ比較的多くの会員が選ばれておりますから第5部門（工学）の運用にあたつて斡旋的役割を掌るには好都合かと思われます。この方面に対しても今後微力を尽したいと考えております。

狭い四つの島に多数の人口を抱え国際的地位も漸次回復しつゝあるわが国において土木の重要性はいよいよ大きくなり，文化施設の根幹をなす土木施設の整備促進や災害の防禦の為の学問の裏付もまた益々必要性を加へつゝあります。重ねて土木学会会員諸彦の御叱正御支援をお願いして御挨拶と致します。

正員　**石原藤次郎**[8)]

今回の日本学術会議の選挙に当選された多数の土木学会々員の一人として，浅学非才の私を加えて下さつたことは，土木学会の御推薦と会員各位の御支援の賜物と存じ，深謝の意を表したいと思います。各位の御指導と御鞭撻の下に，学術会議の使命達成に全力をあげたいと存じます。それにしてもわが国の現状は戦後の荒廃と窮迫のために，容易ならぬものがあります。私は長年大学で研究と教育に専念して来ましたが，定員や経費の面で多くの制約を受け，研究室の運営はなかなかむつかしく，米英などにくらべて非常に遅れたと云われるわが国の科学技術をとりもどすには，研究機関の充実や研究費の増額などに格段の努力を要します。特にわれわれの土木技術の面でその感を深くしますので，あらゆる基礎科学は勿論，土木から分離独立していつた電気，機械その他の最近の進歩を充分とり入れて，正しい実験と調査に裏付けられた権威ある土木技術をつくりあげねばならないと思います。このためには，学術の国際的交流や研究の連絡，工業化などに打つべき手は少くありません。またわが国の学制改革は漸く進んで来ましたが，科学教育を徹底し教養あるエキスパートとなり得べき素養を与えて科学技術の発展に資するためにはわが国の大学のあり方について考えるべき点が多いように思われます。勿論わが国にも有能な科学者は決して少くはありませんが，現実の世相は静かに着実な歩みをつゞけてゆくにはあまりにも騒々しく，やゝもすれば生活の苦しさに圧倒されそうであります。科学者が全能力を発揮出来るように，生活の向上その他について改善すべき点が甚だ多いと考えられます。

私は長い大学生活において，以上の諸点について切実な体験をつんで来ました。これらの体験を生かして，科学の向上発展に資すべき諸方策の確立と実現に努めるとともに，科学を行政産業及び国民生活に反映滲透せしめ，国土の復興を促進し日本が真の文化国家として世界に伍して行くに必要な各種産業を発展せしめるよう，万全の努力をいたしたいと考えております。幸に健康に恵まれていますので，充分の活動をして皆様の御期待にそむかないようにしたいと思つています。御指導と御鞭撻のほどを重ねてお願いする次第であります。